

6月13日「考える会」教育長に要請書を提出

長浜市の提言を受け止めて 統廃合原案を白紙に戻し 開かれた討論を

13日、「県立高校の統廃合を考える会」は、14時から記者会見。その後15時30分から、教育長に要請書を手渡しました。

記者会見で「考える会」は、長浜の提言を「長浜だけでなく県民と県議会の声を凝縮したもの」と評価した上で、教育長への要請内容を説明しました。統廃合計画(原案)を白紙にもどすこと。地域毎に、



高校教育の現状とこれからの方向について、開かれた討論の場をつくること。県段階で、高校教育の現状とこれからの方向について、次のようなテーマで開かれた討論の場をつくること。

- ・子どもや保護者、教職員、地域の思い。・教育の内容と教職員の役割。
- ・教育条件と県教委の役割。・地域と学校の関わり。
- ・全県一学区制度と高校教育。

結論が決まった説明会ではなく、白紙から県民討論会を

記者とのやりとりは次の様でした。

記者「知事は、昨日の長浜市の申し入れを重く受け止めていると述べた。しかし、教育長は6～8学級は必要と言い、直ぐにでも計画を出しそうだった。どうするのか。」

考える会「今日の県議会文教常任委員会で、教育長は、統合の原案の基本は変えないが、地域の声を聞いて一部修正はすると述べた。9月までに新しい案を示す姿勢だ。しかし、これまで2年先送りを決めたのは、教育委員会事務局ではない。地域の声や県議会の力だ。湖北でも彦根でも信楽でも新しい動きが始まっている。知事も県議もこれを無視できないはずだ。地域のとりくみと、県議への働きかけを強めたい。」

記者「県は、これまでの『説明会』などでステップが出来たと言う。『考える会』は地域などの討論会を提案するが、『説明会』とどこが違うのか。」

考える会「これまでは討論会ではない。結論が決まった説明会だ。どんな意見が出て聞き置くだけだった。私たちが提起しているのは、再編原案の枠に縛られず議論して合意点を探るものだ。長浜の提言も指摘している全県一学区や35人学級も議論の対象になる。子どもと保護者と教職員が本当に望む学校の姿も原点から議論する。」

申し入れの趣旨は分かった

15:30からの教育長への申し入れには、高教組2人、全教滋賀2人、母親連絡会2人、湖北の高校を守る会1人が参加しました。「考える会」が申し入れの趣旨を説明した後のやりとりです。

教育長「教育行政として子どもが行きたい学校、充実して成長できる学校を考えねばと思っている。県議会にはしっかり説明し、理解の得られる案を作りたい。今の中学3年生に不安を与えないように、説明の機会を設けたい。」

考える会「県議会の決議は、説明のみを求めたものではない。少なくとも1年以上の検討を求めている。長浜の提言は、原点に返って再検討することを求めている。慌てて8・9月に案を出したら、また大きな問題になる。今までの案を一度引いていただいて、再検討を。」

考える会「原案の説明はもういらぬ。内容は分かっている。地域住民の意見を受け入れるかどうかだ。」

教育長「申し入れの趣旨は分かった。」

教育長は、新再編案の早期策定の構えを崩していません。しかし、結論は決まっていません。3地域をはじめとした県民世論の高まりが決定的です。

ストップ高校統廃合速報 2012年度第6号
2012/6/15 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)